

生きがい情報士 通信

発行 / (財) 健康・生きがい開発財団

<http://www.ikigai-inf.com>

Vol.11 2007.2

Contents

1. 第1回
生きがい情報士活動報告会
2. 埼玉福祉専門学校
生きがい情報士活動報告会
レポート
3. 登録更新のご案内
4. 講師養成研修会のご案内
5. お知らせ／これからの予定

第1回 生きがい情報士活動報告会

この特集は、平成18年11月25日(土)に中央区日本橋公会堂で開催された、「第1回生きがい情報士活動報告会」の、パネルディスカッションの内容の一節です。コーディネータは岩佐浩之氏(生きがい情報士講師)、パネラーは3名の情報士です。3名の情報士の発表内容は次項をご覧ください。



パネルディスカッション

生きがい情報士に求められる 情報提供とは

今お持ちの職業を通して生きがい情報士に求められる情報は何か?

- ・生きがい情報士の色々な知識を得た中で、自分の一番得意な分野を相談者の方にお伝えすることが大切だと思います。
- ・相談者さん個人に合った情報をどれだけ提供できるかということが大切で、その為には、自分の引き出しを少しでも多く備えることが重要と考えています。
- ・色々な分野のことを学び、普通にそれらのことを、利用者さんにお伝えする事が大切なことだと思います。

生きがい情報士の資格について、今後学校・講師・財団に求めるものは何か?

- ・単位や資格が取れば良いと思って勉強していましたが、学んでいるうちに自分にとって大切なことがたくさんあることに気がつきました。なぜ、どうしてこの資格が必要なのか教え込むだけではなく、学生に理解させることが大切だと思います。そのために、資格の必要性を伝えていただきたいと思っています。また、生きがい情報士をもっと色々な人に知ってもらう為にも、情報士の交流の場としてもこの様な会を年に何回か設けていただきたいと思っています。
- ・学生が生きがい情報士という科目名を聞いても、どの様な授業かイメージできないので、どの様な資格なの

か、学校からキチンと伝えてほしいと思います。

- ・先生方には、授業が楽しくなるような、講義をして欲しいと思いますし、授業が出来るだけではなく、学生の相談に情報士として乗れるような先生が必要だと思います。
- ・資格を取って、何をどう生かすのか、先が見える説明をして欲しいですね。情報士の資格を取って、それで終わりではなく、その後のフォローが必要だと思います。「生きがい」とは「生きること」をテーマにしているので子どもから大人の方まで「いじめ」の問題も含めて共通のテーマだと思います。いろいろな方々と交流し情報を共有したいと思います。そのような機会を作っていただければ幸いです。

<参加者の方のご意見>

- ・自分のため・相談者さんのためだけでなく、美容師仲間にライフプランを中心に生きがい情報士の情報提供・活動をしています。(理・美容師)
- ・仕事に就くとその仕事の専門分野の知識は深く身につくが、基本的・常識的に知らなければいけないことを知らずに

過してしまうことが多々あると思います。生きがい情報士とは基本的・常識的に知らなければいけないことを、広く周りの人にお伝えする資格だと思います。世間の人にあまり、この資格の認識が無いのが残念です。(歯科医師)

・資格を取っても自分で活用し・利用してアクティブに行動しなければ意味が無いと思います。この資格を取ればどうにかなるのではなく、自分自身で価

値ある資格にしていく必要があると思います。(建築会社勤務)

たくさんのご意見を伺うことができました。これからますます必要となってくる「地域の世話役」的な役割として“生きがい情報士”が活用される、活躍できる場づくりができればと考えます。

また次回をご期待ください。



生きがい＝目標

生きがい・目標をもつことにより 人間は生き生きとし、輝く



山崎 泰昌さん

プロフィール

2004年3月
東京福祉専門学校 介護福祉科卒業
特別養護老人ホーム 柏きらりの風 勤務
ショートステイ生活指導員
介護福祉士

山崎泰昌さんは、ご自身で作成したパワーポイントでプレゼンテーションしてくださいました。

仕事とプライベート 両方に役立

情報士としての活動の場は、生活指導員として仕事をしている職場と自分自身の生きがい・目標づくりをしているプライベートな場です。

レクリエーション活動で 生きがいが

職場では、デイサービス利用者の方々のレクリエーション活動で生きがいを

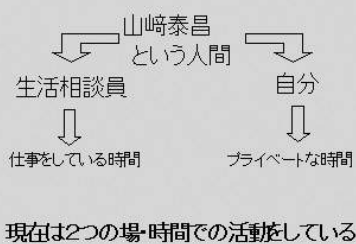
見のお手伝をし、プライベートな場面では自身の生きがい・目標を明確する際に、情報士スキルであるライフプラン設定ツールを利用しています。

人との出会い

資格を取得して一番良かった、活用できたと感じることは、情報士の「世話役」的な役割を通じて様々な分野の人々と出会え人脈が広がったことです。

以下は、当日のお話して下さった、二つの活動の場とツールについての発表画面の抜粋です。

生きがい情報士としての活動の場



1つめの活動の場(仕事の時間)

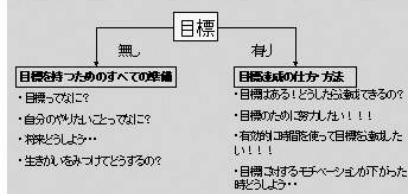
レクリエーション・クラブ活動の提供

- ・炭火(野外での食事作り)
- ・わびさび会(茶道)
- ・四季華道(華道)
- ・大地のめぐみ(食物 植物の栽培)
- ・手作りサロン(手芸 手芸)
- ・のど自慢(カラオケ 講習)
- ・美食ツアー(外食)

様々なクラブから本人にあった生きがいの発見、提供を目指している

2つめの活動の場(自分の時間)

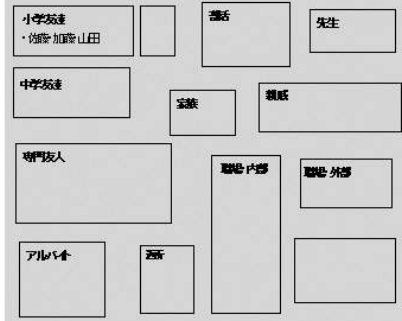
自分の生きがい・目標を明確にするための活動



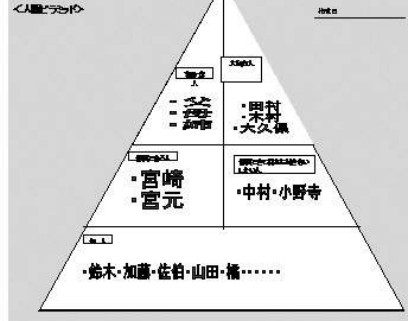
<目標管理>

年月日	目標事項	達成年月日
H18.4.1	稼働率90%以上	H19.10.1
H18.7.1	スタッフ教育	
H20.4.1	介護事業所設立	

人間関係



<人間関係>





「専門職種をもった人」が生きがい情報士になってほしい



山崎 隆一さん

プロフィール

2004年3月
東京スポーツ・レクリエーション専門学校
スポーツインストラクター科卒業

同年6月

(財) 体力づくり指導協会入職、
袖ヶ浦健康づくり支援センター勤務

職場での情報提供について

私の職場では、市民の健康・体力づくりを支援することが目的となり、利用者の方々に健康・体力づくりに関する情報提供を行っています。

ここで自分の得意分野「運動」に関する情報を使い、情報士としての役割が活かされてくると思います。

また、現在は多くに情報を知るためのネットワークが多く広がっています。正しい情報をより多くの方々に伝えることも情報士として必要なことになってきます。

コミュニケーションを大事にする職場

ガウランドは、幼児から高齢者の方まで幅広い年齢層の方が利用しています。職場では、利用者とのコミュニ

ケーションを大切にし、さまざまな年齢層がいる中で挨拶を基本に会話ができるように心がけています。

いろいろな年齢・専門職の方たちに「生きがい情報士」を取って欲しい

情報士の役割は、人と人とのコーディネーターだと思います。さまざまな年齢・専門職の方たちに生きがい情報士の資格を取っていただき、情報士同士のネットワークを作ることが今後必要になってくると考えます。



自分自身の生きがいを求めて



押見 ミイ子さん

プロフィール

1973年 国家公務員郵政初級職合格
同年東京郵政局管内特定局
渋谷東二郵便局、内務職採用
2003年 関東郵政局管内特定局
西上尾郵便局を最後に退職
2004年 埼玉福祉専門学校 社会福祉
科社会福祉コースに入学
2007年 同校卒業見込み

職業生活・ 家庭生活での経験

郵政省職員として30年間勤務し、結婚・出産・子育て、そして家の新築と家庭生活も早期の備えをしてきました。しかし、最後はバーンアウトして退職してしまいました。

退職後空虚感に襲われ自身の生きがいを求め、もう一度学校に行くことにしました。

退職の際、ハードなランディングをしたので、今一度ソフトランディングに向けての準備をしているところです。

生きがい情報士資格取得中の 学生として感じること

介護施設などでの実習を通じて、皆さんに喜んでいただくことは何なのだろうと考えています。

自身の経験に重ねてみて、60歳で定年を迎える方々にはこれからの生きがいが必要だと思いますし、一方で生活のために働くことを余儀なくされる方々もいらっしゃることも知っています。情報士は自分自身も含めて、皆さんの「生きがい」のコーディネーターなのだと感じました。

情報士としての活動

卒業後の生きがい情報士としての活動としては、情報士の持つ情報提供技術を社会人教育の一環として健保組合セミナーに活用することを考えています。

報告会アンケートに寄せられた意見

報告会ではアンケート形式で参加された方々のご意見を伺いました。参加いただいた37名のほぼ半数の18名の方からご意見をお書きいただきました。

18人中12名の方が報告会の内容を「よかった（よい、だいたいよい）」と答えています。また、今後研修会・活動報告会を開催した場合、14名の方が参加すると答えています。その他の質問へのお答えは次のようになっています。

●生きがい情報士の活動についてどのようにお考えになりますか？

多くの方が、情報士の活動として定年を迎える団塊の世代と地域との橋渡しを挙げていました。

いただいたご意見の中からいくつかをご紹介します。

- ・2007年問題で今後多くの方が地域社会にでてくる。その中には生きがいや目標がなく途方にくれる人も多くいると思う。その人たちのためにまさに活躍の場があるのではないかと思う。(情報士)
- ・地域全体（市町村）で健康づくりに取り組む必要性があり、情報士が中核になると考えられるから。(養成校主任教員)
- ・団塊の世代の地域デビューを助けたり地域活動の中で情報士の資格(知識)をどのように生かすかもっと研究したい。(アドバイザー、情報士講師)
- ・介護実習等で(学生時代)感じることは、これから中高年の方々が増加する中でやはり”いきがい”を持って生活することは、必要であり、その手助けをするのは、重要な役割だと思う。(養成校教員)

●生きがい情報士についての何かありましたらお考えをお書きください。

情報士や(アドバイザー)情報士講師の方々は、ネットワークづくりなど交流の場、教員の方々は教授法についての情報提供を挙げられています。

- ・アドバイザーと情報士の違いを明確な違いを出して欲しい。情報士の全国ネットワークを作るべく準備して欲しい。情報交換を行っていく場として、多職種との交流の場を設けて欲しい。(情報士)
- ・卒業した情報士の地域での活動事例、高齢者の情報士同士の意見交換(アドバイザー、情報士講師)
- ・支援をするというより一緒に遊ぶ、学ぶを中心に養成するとよい。技術を身につける。(アドバイザー、情報士講師)
- ・生きがい情報士の活動に対して対価を考えたほうがよい。認知度を上げる。(情報士・講師)
- ・授業の仕方、試験の仕方を知りたい。(養成校主任教員)
- ・生きがい情報士の資格取得に関して学生がまだまだ資格について重要性を見出してない。生きがい情報士としての実習があればよい。(養成校教員)

埼玉福祉
専門学校

生きがい情報士活動報告会 レポート

2007年1月10日、埼玉福祉専門学校の3年生、約100名を対象に、「生きがい情報士活動報告会」がJA共済埼玉ビル第1会議室において開催された。主催は、財団法人健康・生きがい開発財団。報告会の目的としては、以下の4点があげられている。

1. 生きがい情報士のよりよい活動を共有する
2. 情報士の向上研修とする
3. 情報士の活動を知り、自分の活動の参考にする
4. 情報士の情報交換の場とする

当日は、健康・生きがい財団 事務局長 藤村宣之氏、同常務理事 平田豪成氏の挨拶に引き続き、生きがい情報士の山崎泰昌さん(社会福祉法人涼風会)、岸田史佳さん(写真右)、大西純子さん(地域活動・相談支援センターかさいセンター長(写真左))の報告がそれぞれ行われた。

なお、講演が予定されていた山崎泰昌さんは、当日お仕事の関係で参加できなくなり、昨年の11月25日に行われた報告会の模様がビデオで上映された。



報告会の様子

まず、報告を行った岸田史佳さんは、7年前に東京福祉専門学校 医療福祉科を卒業。卒業と同時に熱海(熱海)の精神障害者の作業所

で5年間勤務され、昨年の9月までデイサービスセンターの生活相談員もつとめられていた。また、大西純子さんは、10年間千葉県市川市のボランティア・センターで活躍された後、現在、2006年10月1日に東京都江戸川区に開設された、地域活動・相談支援センターかさいのセンター長をつとめられている。

◆情報収集・情報の橋渡しの大切さ

お二方の報告で共通していたのは、「情報収集の大切さ」、「情報の橋渡し」ということ。岸田さんは、勤務地が熱海ということもあり、インターネットでの情報収集が非常に有用であったと語られていた。しかし、単にインターネットで情報を収集するだけでは、一般の利用者と変わらない。生きがい情報士は、何が違うのか。精神障害者の施設に勤務していた時も、デイサービスセンターの相談員をしていた時も、ゆっくりパソコンに向かっている時間はほとんどなかったという。生きがい情報士ならではの情報収集法、それはいかにも的確に、短時間で欲しい情報を得られるかということであるという。もうひとつ、探し出した情報の管理とそれを他の人に橋渡しすることも、非常に重要であると指摘される。自分が繰り返し使うであろう情報を、自分なりの資源として管理する、財産として有効活用する、さらにはその情報を人にも伝達することの重要性を強調されていた。



◆人的ネットワークでも情報収集

大西さんは、障害者やそのご家族から、相談を受けたときに、分かりません、知りませんという対応は絶対にしてはいけない、という観点から情報収集の重要性を説かれていた。ある知的障害のお子さんを持つ母親から相談を受けた際の実例を交えて、報告が行われた。大西さんは、まずインターネットで情報を収集しようと試みたが、思うような情報は得られなかったという。そこで、人的なネットワークを駆使して、情報収集に当たったという。ここで、大西さんは、人的ネットワークの重要性も併

せて強調されていた。人と人をつなぐ、コミュニケーションである。一度お会いした方の、名前と顔は極力記憶に留めるように心がけているという。それが、後々、いろいろな局面で、非常に有用となってくることが多いとも指摘されていた。

今回の報告会は、数日後に生きがい情報士の資格試験を受験する生徒にとっては、非常に有用なものであったという印象を受けた。それは、報告会終了後の質疑応答で、現場の貴重な体験に接することができ、非常に有意義であったという感想が多く聞かれたことでもうかがえる。

教職員感想

平成19年1月10日(水)に社会福祉科学生96名を対象に「生きがい情報士活動報告会」を開催しました。当日は、平田豪成常務理事の「生きがい情報士の資格が誕生した背景について」の講演からスタートしました。授業を通して生きがい情報士のカリキュラムを履修している学生たちも「資格誕生」について知る機会はまだなく、平田常務理事の話を変興味深く聞いていました。

続いて、「生きがい情報士」の資格を取得され、資格を生かして活躍されている生きがい情報士の方から事例を発表していただきました。実際に資格を取得したものの、それをどのような場所でどのように生かしていくことができるのかを生の声で聞いたことは学生にとりまして、また実際に学生指導にあたる私たち教職員にとりまして非常に興味深いものでした。



資格は取得して終わりではなく、それをどう生かして自分のものとしていけるかが重要になってきます。それがまさに体験できた貴重な時間でした。

最後に質疑応答の時間を設けていただきました。学生からは活発に質問がなされ、それに対して生きがい情報士の方も率直な回答を学生に返して下さいました。

あっという間に予定の2時間が経過し、会は終了しました。会場を出る学生から「絶対に生きがい情報士を取得したい」「生きがい情報士の資格を持っていると幅広く活躍できることがわかった」等の声が聞かれたことは大きな成果です。資格試験を3日後に控えたところでの会の開催でしたが、絶好の動機付けの機会となりました。

外部の会場に当事者を招いて講演会を実施し、講演を通して資格の重要性・活用法を学ぶという方法は本学科では初の試みでした。実際に開催してみてその効果の大きさは回りしれないものがありました。当日、お忙しい中ご協力いただきました発表者、関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

報告会（埼玉福祉専門学校）アンケート集計結果

埼玉福祉専門学校の報告会でもアンケート形式で参加者のご意見を伺いました。参加者96名中90名の方からご意見が寄せられました。

●報告会の内容について

「よかった(よい、だいたいよい)」58名、「普通」35名

●パネルディスカッションの内容について

「よかった(よい、だいたいよい)」40名、「普通」52名

●生きがい情報士の活動について

「必要である」84名、「必要でない」3名

●今後研修会、活動報告会を開催した場合参加しますか。

「参加する」16名、「どちらでもない」67名、「参加しない」6名

●今回参加して情報士の資格が理解できましたか。

「できた(理解できた、まあまあ理解できた)」73名、「どちらでもない」11名

●中高年者を支援する生きがい情報士の活動が必要であると考える理由?

生きがいがない人にとっては、生きがい情報士がいることにとって生活が明るくなったりと前向きになれたり、必要だと思ふ。

人生は、最初から最後までより良いものでなくてはならないと思う。それをサポートする上でとても必要なものではないかと思う

誰もがよりよい生活を望むと思うし、生きがい情報士がいる

ことよってできる。

福祉系の学生だけでなく、地域により密着している職業の人もとれたら、もっと気軽に相談しやすくなるのでは、と思う。新しい情報を持つということは大切だということを実習で思った。その情報を常に持っている情報士は、重要な存在だと思ふ。

今後生きがい情報士という資格が増えれば、地域社会がより一層充実していくと思う。

今後は、介護予防の視点が注目されるなか、在宅で暮らす高齢者の方々が生きがいをもちながら元気に活動することは必要だと思ふ。

高齢社会になるにつれて介護予防は、必要になってくる。そのためにも生きがい情報士が中高年者に対して様々な情報を提供し、家族も含めた介護予防ができればと思う。

今後中高年者は、定年後の第2の人生や加齢に伴う問題の発生などについて数多い情報からまさに自分達に必要な情報をよりもとめるようになるので今後も、そういった情報で的確に提供できる職種が必要となるから

これから会社を退職して何もやることがない。でも何かやりたいという人がたくさん出てくると思うのでそういう人たちに情報を提供していけるためにも必要だと思ふ。

資格の有無にかかわらず情報を調べる、知るということは、人生において必要だと思ふから

学生対象のイベントは初めてでした。学校、学生から大変好評でした。
養成校で、学校向けのイベントをご希望の場合は、財団にご相談ください。

平成17年3月に登録された生きがい情報士の皆様へ 生きがい情報士の登録更新が始まります。

登録更新のご案内

今年度の登録対象者は、

更新：平成17年3月までに登録された方

再登録：登録更新を忘れていた方

今年更新されると、平成21年3月31日まで有効となります。

健康・生きがい開発財団は、生きがい情報士通信や支援活動の各種情報の提供をしています。インターネットが普及する中で情報が氾濫し、欲しい正しい情報を早く見つけ出さなくてはなりません。その情報が「生きがい情報データベースサービス」を使うとすぐに見つけることができます。専門職をよりレベルアップさせるためにも生きがい情報士の様々な特典を活用してください。

登録更新料： 10,000円(2年間)

登録受付期間： 平成19年5月30日(水)

4月1日までに登録カードが必要な方は、3月2日(金)までに手続きを！

3月3日以降の受付については、4月以降の発送となります。

注意・受付期間(5月30日)を過ぎた場合は、今年度の登録はできません。

振込先： りそな銀行 茗荷谷支店 普通 NO 1199186

財団法人健康・生きがい開発財団

注意・振込みは、名前の前に必ず認定番号を！

77777	生きがい	花子
認定番号	名	前

生きがい情報士の特典

生きがい情報士には登録することでたくさんの特典があります。専門資格を生かすためにも生きがい情報士に登録して、仕事の幅を広げてください。

特典

1

初年度認定登録料 20,000円

その後2年ごとに更新(更新料10,000円)
*資格は、永久資格です。更新を忘れてた方は、すぐに再登録手続きをしましょう!!!!

特典

3

生きがい情報士通信など活動に必要な資料や教材等を得ることができます。

年間2回発行の情報士通信は、生きがい情報士として活動するための最新情報が掲載されています。

特典

5

生きがい情報データベースの最新動向(冊子)を取得できます。

特典

6

集会、研究会等へ参加することができます。

最新のテーマによる集会、研究会を開催しております。また、生きがい情報士同士の情報交換の場としても活用されています。

団塊の世代の退職期を迎え、これから益々中高年者の生きがい支援ができる“生きがい情報士”が必要となってきます。登録によって取得できる情報を大いに活用して活躍してください。

特典

2

「生きがい情報士」(厚生労働省所管の財団認定資格)として公表して活動できます。

特典

4

生きがい情報データベースにアクセスし、最新情報を取得することができます。

生きがい情報データベースは、18年度からPCだけではなく携帯電話からもHPにアクセスできるようになりました。またデータベースは、随時更新しております。活用して最新情報を取得してください。

<http://www.ikigai-inf.com>



特典

7

講師養成研修会を受講し、生きがい情報士講師としての認定を取得することができます。

生きがい情報士講師として、母校で生きがい情報士の教鞭をとったり、財団主催の講習会などの講師をすることができます。

生きがい情報士の あなたも取得できる 生きがい情報士講師

生きがい情報士を取得している方は、生きがい情報士講師へステップアップできます。
今まで約6,000名を超える生きがい情報士が誕生し、その中の4名が生きがい情報士
講師を取得しています。講師資格を取得すると養成校で教鞭をとることができます。
また、財団主催の研修会等の講師ができます。是非挑戦してみてください。

「生きがい情報士」講師養成研修会のご案内

生きがい情報士登録者の方を対象に3日間の養成研修会を行い、資格審査試験をクリアした方を「財団認定講師」として認定し、生きがい情報士の養成にご尽力いただくためのものです。

1. 日程 平成19年3月23日(金)～25日(日)
(詳しいスケジュールはあらためてご案内します)
2. 会場 東京医薬専門学校(東京都江戸川区東葛西6-5-12)
(東京メトロ東西線「葛西駅」より徒歩3分)
3. 実施方法 講義・演習形式による研修と資格審査試験(知識問題・演習問題)
4. 受講資格 パソコンの基本操作が出来ること
5. 受講費用 ¥96,000(テキスト代、受験料を含む)
6. 受講資格 生きがい情報士登録者・指定養成校主任教員・健康生きがいづくりアドバイザー
7. 受講定員 20名
8. 申し込み締め切り 平成19年3月16日(金)
9. 申込方法 (1) まずは受講の申し込みをTel、fax、mailにて事務局までお願いします。
(2) 受講料入金依頼書を財団からお送りします。
(3) 受講料入金確認が揃った時点で正式申込となります。

以上



■ カリキュラム

科目名		形態	時間
生きがい総論		講義	1 H
就労・健康づくり・健康相談		講義	3 H
余暇・社会参加・福祉相談		講義	4 H
経済金融		講義	2 H
集団参加援助技術・地域参加援助技術		演習	3 H
調査・広報技術・イベント技術・ライフプラン技術		演習	4 H
コンピューター技術		演習	2 H
合計			21 H
認定試験	知識問題	択一式50問出題	1 H
	演習問題	記述式で1問出題	1 H

平成18年度生きがい情報研究集会

講演 「新しい福祉・医療の制度について」

京極 高宣 氏 (国立社会保障・人口問題研究所 所長)

日時：平成19年3月3日(土) 13:00~15:00

会場：ベルエポック美容専門学校 第2校舎



講演者プロフィール

京極 高宣 (きょうごく たかのぶ)

国立社会保障・人口問題研究所所長

1975年東京大学大学院経済学研究所博士課程終了
その後日本社会事業大学で教鞭を執られ、1995年4月から
2005年3月までの10年間、同大学で学長を務める。

著書 『京極高宣著作集(全10巻)』(中央法規)、『介護保健改革と障害者グランドデザイン』(中央法規)、『新版 国民皆介護』(北隆館)他多数、

今年3月にいよいよ団塊の世代が定年期を迎えます。中高年者が生きがいを持って生活するために、情報提供できる“生きがい情報士”が力を発揮できるようになってきます。そこで今年度は、生きがい情報士の生みの親である京極 高宣氏をお迎えして最新の福祉・医療制度についてお話していただきます。最新の福祉・医療制度を学び、生きがい情報士の未来を展望してください。

参加費 無料

主任教員研修会の開催について

指定養成校の義務になっております主任教員実務研修会です。養成・認定のための実務、資格審査試験、資格審査試験の採点基準、講師養成研修会についての研修会です。今年度は、特に18年度資格審査試験の採点基準(演習問題)についての説明があります。

日時：平成19年3月3日(土) 15:15~17:00

会場：ベルエポック美容専門学校 第2校舎



会場案内

ベルエポック美容専門学校 第2校舎
東京都渋谷区千駄ヶ谷3-57-6

最寄駅

JR原宿駅下車 竹下口より徒歩5分
東京メトロ明治神宮駅下車 2番出口より 徒歩7分

生きがい情報士平成19年度活動予定

4月	登録証の発行(新規登録者、更新者)	2月上旬	生きがい情報士通信発行
11月上旬	生きがい情報士活動報告会 および指定養成校説明会	2月下旬	認定登録・登録更新締め切り
	生きがい情報士通信発行	3月8日(土)	生きがい情報研究集会、 主任教員研修会
12月	認定試験受験申し込み	3月28日(金)~30日(日)	生きがい情報士講師養成研修会
1月12日(土)	資格審査試験		
1月下旬	合否発表・認定登録 登録更新手続き開始		

編集後記

18年度の資格審査試験が終わり、また新しい“生きがい情報士”が誕生します。3月には、団塊の世代の退職者が多くなり、情報士の活躍の場が増えます。ご自分の専門職+αの資格として活用していただきたいものです。そして情報士の方一人一人が“身近な中高年者を支援できる生きがい情報士”となっただけのように財団も頑張りたいと思います。財団へのご要望などをお待ちしています。

生きがい情報士通信 Vol.11

- 発行日 平成19年2月
- 編集発行 財団法人 健康・生きがい開発財団
〒112-0002 東京都文京区小石川5-2-2 わかさビル4F
TEL 03-3818-1451 FAX 03-3818-3725
URL <http://www.mmjp.or.jp/ikigai/>
E-Mail ikigai@z.email.ne.jp